

## 《第2章》

# 子どもの発達と効果的な防犯教育

## 子どもと接するときの基本ポイント

ひとくくりに「防犯教室の指導」と言っても、実際は対象となる子どもの年齢や取り上げるテーマ、利用する教材等によって、指導の仕方は異なってきます。それぞれの理解度に応じた内容や教材を選ぶことは基本ですが、ただ、そのような違いはあるにしても「子どもがより深く理解する」方法については、全般に共通するポイントがあります。

ここでは子どもたちに話をする(指導する)場合に、特に意識してほしい事柄についてあげてみました(学校の教員向けに作られた資料の、参考になる部分を抜粋して紹介)。子どもと接する際的基本的なポイントとして心得てもらいたいことです。

### 「表現豊かに、腹筋を使ってはっきりした声で」

- 子どもたちを集中させたいときなどに意図的に声量を抑え、静かに話す方法もあります。

### 「正しい言葉づかいで」

- 常に「人権尊重」を意識し、軽率なひと言で相手の心を傷つけないようにします。
- はやり言葉や「ら抜き言葉」など、よく聞く言葉でも誤った言葉づかいは避けます。  
(「見られる」を「見れる」と言うなど)

### 「計画に基づいて」

- 子どもたちの混乱を避けるため、一回に出す指示は一つに絞ります。
- 子どもたちと目をあわせ、表情や反応を確かめながら説明したり発問したりします。
- 具体的に指示し、全員ができたか確かめ、集中するまで待ちます。

### 「的確にほめ、簡潔に注意する」

- 子どもの上達や成長を探るようにし、タイミングを逃さず、具体的にほめましょう。
- 注意する場合は簡潔に、常に冷静に対応しましょう。
- 感情をむき出しにして叱る(怒る)ことは、要求の通し方の単なる悪い見本です。

## 「名演技者として」

- 明るい雰囲気子どもたちと接しましょう。
- 学習から逸れない範囲でユーモアを交え、安心して学習できる場をつくりましょう。

以上、『「授業力」の向上を目指して』  
(港区教育委員会指導室作成)を抜粋して紹介。  
これらを参考に、実際の防犯教室に応用し、  
活用してください。



## 子どもが自ら危険回避能力を身につける指導を

また、基本的な姿勢としては「教え込む」のではなく、「いっしょに考え共に学ぶ」気持ちで向き合い、「子どもが自ら危険を回避する力を身につけるよう」リードすることが大事です。身の回りで起り得る大小さまざまな事から（ここでは防犯について）に勇気を持って臨機応変に対応できるようになることを目標として、小さなくふうを積み重ねて問題解決をしていく力をつけましょう。

子どもたちと接することで、逆にパワーをもらうこともあるはずですが、子どもたちにとって、防犯指導をしてくれる指導員（警察官やスクールサポーター）は、「ぼく・わたしたちを守ってくれる心強い大人の代表」なのです。明るい気持ちで経験を積み、指導力を高めてください。

次ページから

子どもの発達段階に合わせた  
指導の基礎知識 を紹介

## 子どもの発達段階に合わせた指導の基礎知識

### 就学前（幼児）

#### 成長と発達の様子

##### 3～4歳になると・・・

- 言葉をたくさん覚え、好き嫌いや愛情・嫉妬・おそれなどの感情を言葉であらわすことができるようになる。
- 身近なものへの関心が高まり、「ごっこ遊び」をするようになる。
- 「あれなに?」、「どうして?」など質問が多くなる。
- 物事を絵で表現することもできるようになる。



##### 5～6歳になると・・・

- 字の読み書きができるようになってくる。(個人差はある)
- 運動神経、知的能力(記憶力や思考力)、情緒も発達し、道徳的な善悪の判断ができるようになる。
- ルールのあるゲームなど、遊びの中で、たくさんのことを学ぶようになる。



#### 日常生活の様子

- 基本的には、子どもだけで行動することはないが、大人といっしょにいてもふいに走り出したり、目の届かないところへ行ってしまう可能性がある。



## 防犯指導をする時のコツ

●言葉を覚え、知識もどんどん吸収する時期なので、「防犯意識を芽生えさせる(土台作り)」のに重要な時期。ポイントを絞った内容を反復して指導する。

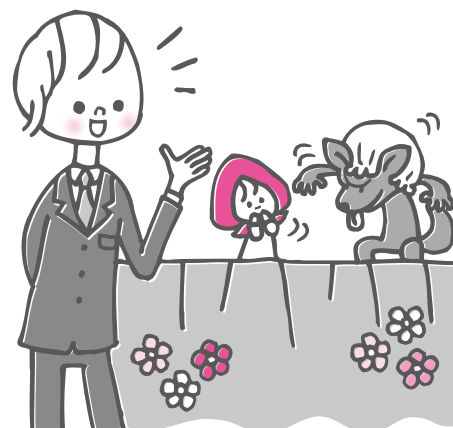
●子どもたちが楽しみながら学び、かつ印象に残るよう、なるべく視覚的な教材を使って、わかりやすく話をする。(p.28～36のプログラム参照)

●不審者が登場するような直接的な防犯絵本などより、「七匹のこやぎ」「あかずきんちゃん」などの童話を通して、間接的に防犯に対する意識を高める。

●「悪い人」に対する固定観念を持たせない指導を。

●また、「もしも連れ去られそうになったら」を前提に話を進めず、「一人にならない」、「大人(お父さんやお母さん)から離れないようにすればだいじょうぶ」ということを基本的に指導する。

●そのうえで「まわりの人から見えにくい場所には行かない」、「知っている人・見たことのある人でも、決してついて行かない」ことを教える。



## 小学校・低学年（1～2年程度）

### 成長と発達の様子

- 自分のしなければいけないことや自分の身の回りのことができるようになる。
- まだ幼い部分もあり、集中力は長続きしない。
- 集団の中で協調性を持って生活しつつ、手をあげて発言するなどルールを守りながら自己主張もできるようになる。



### 日常生活の様子

- 就学と同時に登下校が始まり、子ども同士で公園で遊ぶなど、親から離れて行動する機会が増える。



## 防犯指導をする時のコツ

●幼児期に芽生えた「防犯意識」を育てる大事な時期。物事  
の理解力は発達する反面、まだ幼く集中力が長続きしない  
ので、なるべく視覚的な教材を使ってわかりやすく話をする。  
時折子どもに考えさせたり発言させるなど、積極的に学ぶよ  
うな流れをつくる。(p.38～44のプログラム参照)

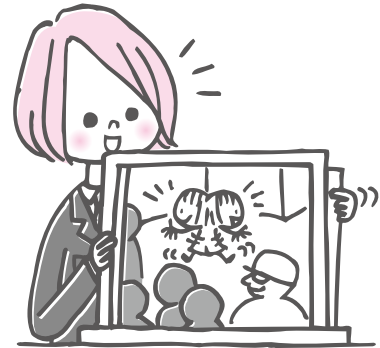
●防犯絵本や紙芝居などをうまく利用して、楽しみながら危  
険回避能力を身につけさせる。「怖いから気をつけよう」と  
いう「脅し」にならないよう、「気をつけていればだいじょ  
うぶ」という肯定的な表現で指導する。

●登下校など、幼児期に比べて行動範囲が急激に広がって親  
以外の人に接する機会も増えるが、「世の中には悪い人が  
たくさんいる」という教え方では人間不信に陥ってしまう。  
実際には子どもの安全を守ろうと活動している大人がたくさん  
いることを教え、自分(子ども自身)が気をつける点として、  
「できるだけ一人にならない」ことを指導する。

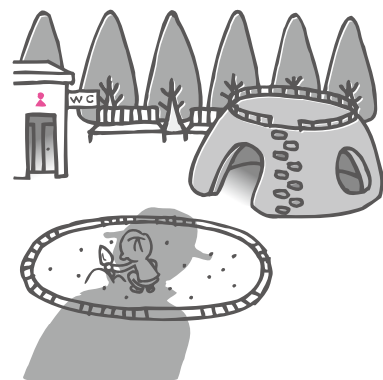
●さらに、「危ない場所・まわりの人から見えにくい場所には  
近づかない」、「知っている人・見たことのある人でも、決  
してついて行かない」ことを教える。

●「いかのおすし」(警視庁・東京都教育庁考案)などの防  
犯標語も使い、楽しみながら防犯意識を高める。

●防犯ブザーや防犯笛は、「登下校時にはいつも持ち歩きま  
しょう」という指導だけでなく、具体的なつけ方や使い方、  
メンテナンス(電池のチェック等)についても指導する。学  
校から帰った後の外出時にはどうしたらよいかも、考える機  
会を持たせる。



できるだけ一人にならない!



## 小学校・中学年 (3~4年程度)

### 成長と発達の様子

●絵本ではなく、小さな字のならんだ児童書を読むようになり、ルールのおもしろいゲームも楽しめるようになる。

●心身の成長につれて、異性を意識するようになる。



### 日常生活の様子

●先生や親よりも、友だちとのつながりを大切にするようになり、友だち関係も複雑になってくる。

●留守番をまかされる子も増える。

●遊びや習い事で、少し遠くに子どもだけで出かける機会も増える。

●お小遣いをもらうようになるなど、お金を持ち歩く機会も増える。





## 防犯指導をする時のコツ

●それまで育まれてきた「防犯意識」を定着させるだいじな時期。様々なシチュエーションをクイズにするなどして、子どもに考えさせたり、発言させたり、積極的に学ぶような流れをつくる。(p.46～52のプログラム参照)



●「不審者」というキーワードを強調すると人間不信に陥ってしまうので、実際には子どもの安全を守ろうと活動している大人がたくさんいることを教え、自分(子ども自身)が気をつける点として、「できるだけ一人にならない」ことを指導する。

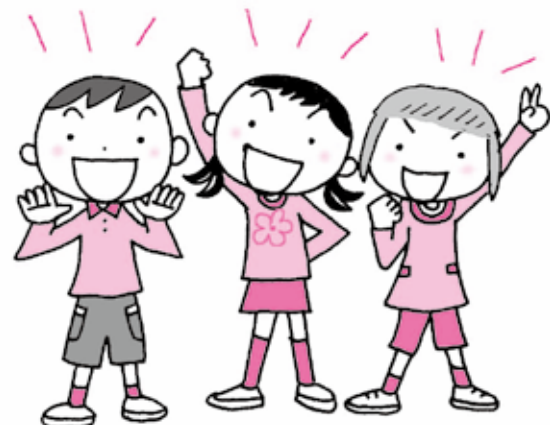
●どんな場所でも犯罪にあう危険性があることを伝え、そのうえで、「危ない場所・人目の届かない場所には行かない」、「知っている人・見たことのある人でも、決してついて行かない」ことを教える。そういう場所に近づかないようにすれば、連れ去られることはない、勇気づける。



●「いかのおすし」(警視庁・東京都教育庁考案)や「つみきおに・五つのやくそく」(警察庁考案)などの防犯標語を使って、楽しみながら危機意識を高める。

●留守番時の危険を教え、それぞれの家のルールを決めておくよう指導する。

防犯標語で楽しく学習





## 小学校・高学年（5～6年程度）

### 成長と発達の様子

- 次第にそれぞれの性的特徴が目立つようになり、羞恥心も芽生え、考え方や感じ方も性別によって違ってくる。
- 人にどう見られるか、どう思われるかなどが気になり、自分が能力のある人間かどうか考えたり、悩んだりする。
- 様々な手段により、自分に必要な情報収集や情報処理ができるようになる。
- 新聞、テレビなどからの情報もかなり正確に理解できるようになる。
- 学校では最上級生としての自覚が高まり、下級生の面倒をよく見るようになる。



### 日常生活の様子

- 子どもだけの世界が確立され、大人に秘密を持つようになる。
- パソコンでインターネットを楽しんだり、携帯電話の所有率も高くなってくる。
- 塾や習い事で、一人で電車やバスを利用したり、帰宅時間が遅くなることもある。

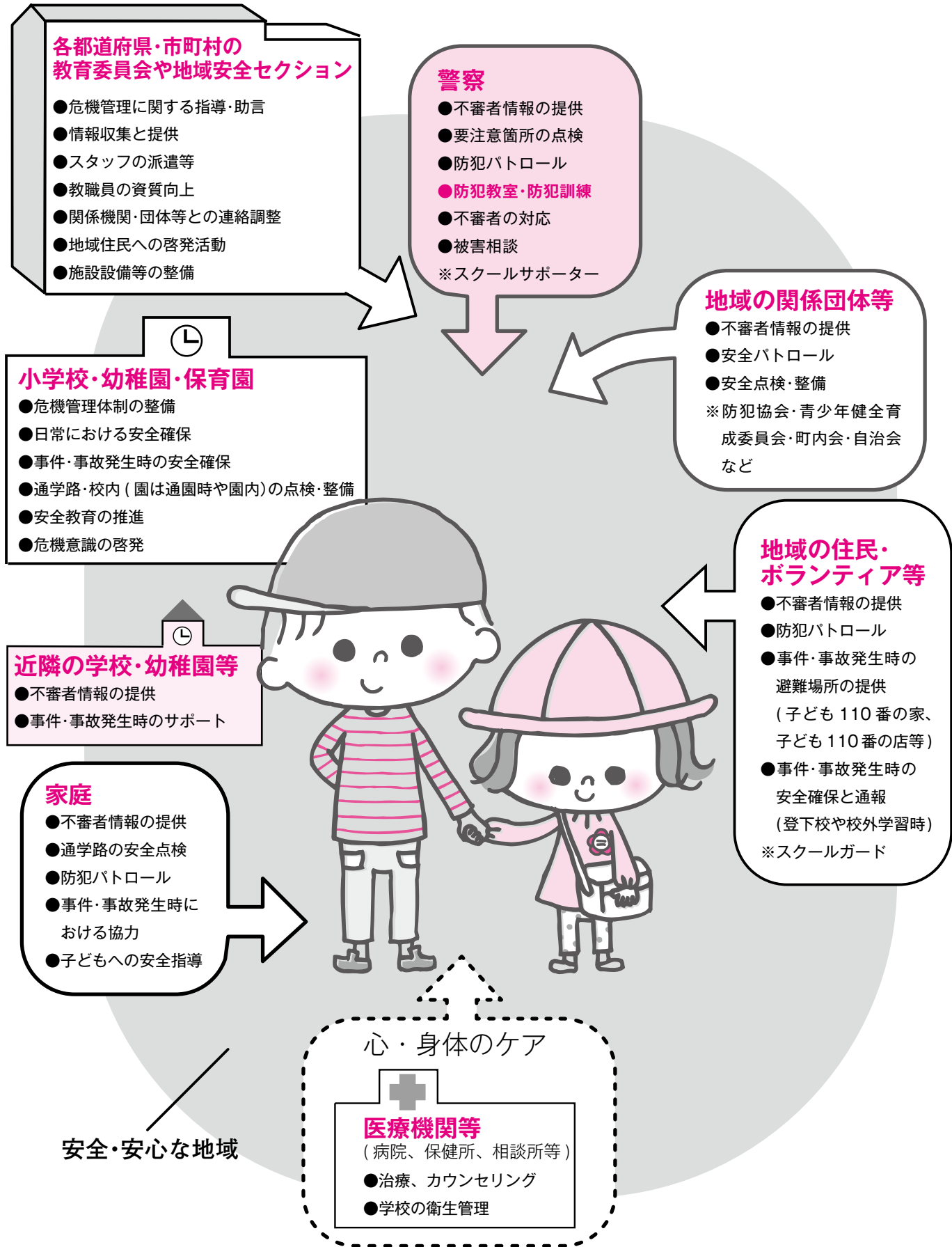


## 防犯指導をする時のコツ

- 定着した「防犯意識」を発展させるだいじな時期。「防犯」に対して自分でできることを考え、積極的に提案していく流れに導く。(p.54～58のプログラム参照)
- 行動範囲がより広がるので、どんな場所でどんな犯罪が起こり得るのかの情報を伝える。
- 実際にあった事件などを題材に、「このような犯罪が二度と起きないようにするためにはどうしたらいいか」を考えさせ、当事者意識を持たせる。「自分だけはだいじょうぶ」という過信は禁物、「実際に被害は少なくとも、被害にあわないという保証はない」と指導する。
- 幼稚な教え方では、反抗的な態度をとる子もいるかもしれないので、あまり子ども扱いせずに「いっしょに考える」というスタンスで指導する。防犯標語も「幼稚すぎてばかばかしい」と思わせないように、「君たちは下級生を守る立場になったのだから、防犯標語を下級生に教えられるように覚えよう」と促す。
- 自分の身だけでなく、小さな子の安全も守る立場にあることを意識させる。地域防犯に貢献するための活動についても指導する。
- 携帯電話を所有することについては賛否両論あるが、所有を禁止するのではなく、携帯電話の危険性や正しい使い方を指導することが大切。
- サイバー犯罪の危険性を考えさせ、対処法を伝える。



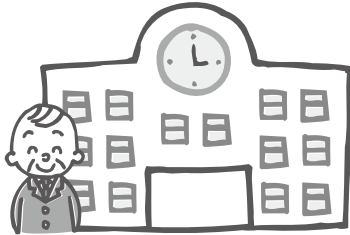
# 子どもを取り巻く防犯のネットワーク



# 子どもを取り巻く「学校」・「地域」・「家庭」の声

子どもを取り巻くそれぞれの現場から、防犯活動・防犯教室についての声を紹介します。

## 学校



スクールサポーターさんにお世話になっています

● 地域で緊急事態や凶悪犯罪などが発生したときには、すぐにスクールサポーターさんから連絡が入ります。それによって、学校は速やかに集団下校の実施などの対応を検討し、実施しています。

(東京都内公立小学校 校長)

● 生徒が犯罪に巻き込まれそうになったり、学校の安全管理などで困ったときなど、とにかくまずは、スクールサポーターさんに相談することになっています。スクールサポーターさんは、その相談内容から適した(警察の)窓口につないでくれるので、警察との連携がスムーズで助かっています。

(東京都内私立女子校 教頭)

## 地域

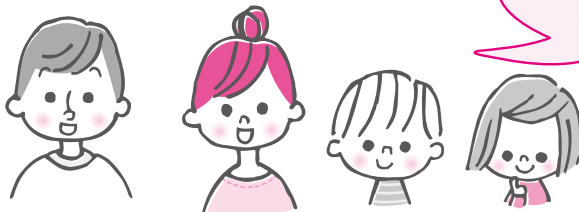
パトロールをがんばっています



● 小学校児童の登下校の横断誘導や見守り、定期防犯パトロール、青色回転灯パトロール、交通安全啓蒙活動、小中学校 PTA に対しての地域安全啓蒙活動、夏祭り警戒・年末夜警もやっています。わたしたちから、警察の方にパトロールの強化をお願いしたこともあります。そのかいあって、地域の犯罪発生件数が減少しました。また、子どもたちが元気に挨拶してくれるようになったことが励みになっています。

(岡山県在中46歳男性 地域の自治会長)

## 家庭



子ども向け防犯教室(講義)を、お願いします

● 警察の方が来てくれたらいちばんよいと思います。子どもたちも「この地域にはこの警察の方がいるんだ」ということを知る、よい機会でもあると思います。(宮城県在住 29歳 幼稚園児の母親)

● 制服姿の警察官から説明してもらったほうが、子どもたちも安心して真剣に聞くとおもいます。

(大阪府在住 38歳 小学生の父親)

● 犯罪の取り締まりなどをしている警察官と、犯罪知識のある NPO 団体が協力したら、すばらしい講義になるとおもいます。

(大阪府在住 28歳 3歳児の母親)

● 話し手の警察官が一方的に話すだけでなく、子どもたちにマイクを向けたり、子どもたちが夢中になって聞くような、楽しいツールを使って説明していただけるとうれしいです。

(東京都在住 41歳 小学生の母親)



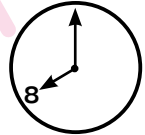
# まちと子どもたちの一日

## あいさつ運動

人々の社会的なつながりや信頼関係を構築することで、人々の協調行動が活発となり、社会の結束力や地域力を高めることができるという「ソーシャル・キャピタル」という考え方が近年注目され、地域住民が「あいさつ運動」をすることで、犯罪に強いまちづくりにつながると言われている。また、子どもたちも「大きな声であいさつをする習慣」により、いざというときにも、大声が出せるための訓練となる、とされている。

## 自主ボランティアによる登下校の見守り

近年、自主防犯団体の活動が活発化し、全国各地で「登下校の見守り」や「あいさつ運動」が実施されている。「わんわんパトロール」のように、ふだんの習慣を登下校の時間に合わせたり、体の不自由な人には、定位置で座っていただくなど、なるべく個人の負担が少なくすむようなくふうもなされている。

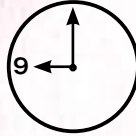


## 登校

集団登校をしている学校もある

## 自主防犯ボランティアによる夜間パトロール

一人で見回ったり、女性だけのチームでパトロールするなど、危険を伴うケースもあるので、指導や支援が必要。警察と連携して実施している地区では、少年の深夜徘徊が減少するなどの効果が出ている地域もある。

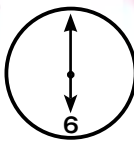


## 塾や習い事の帰りなどで、暗くなってから帰宅する子どもたち

保護者の送迎がある場合と、子どもだけで自転車などで帰宅する場合があります。

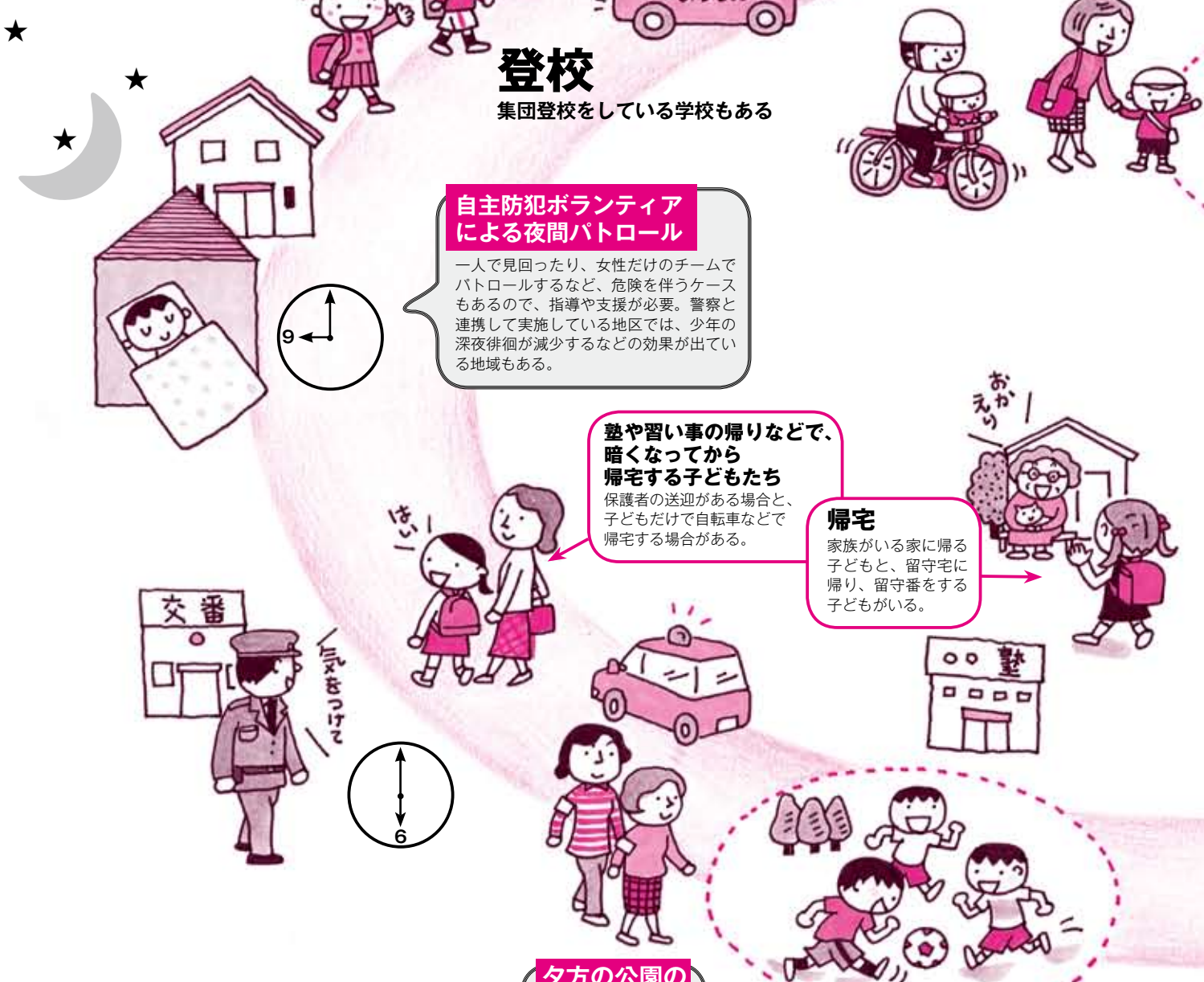
## 帰宅

家族がいる家に帰る子どもと、留守宅に帰り、留守番をする子どもがいる。



## 夕方の公園の見回り活動

● 15:00 ~ 17:00  
放課後に小学生が集う公園





## セーフティ教室

学校で開催されるセーフティ教室（防犯教室など）は、各学校が独自に企画したり教育委員会と連携を取るなどして開催され、警察署やスクールサポーターに講師依頼がくることもある。また、積極的に学校にアプローチし、警察が企画して学校に提案している地域もある。



● 10:00 ~ 12:00  
ママと乳幼児が集う公園



## まちのクリーンアップ

まちをきれいにすることは、環境汚染をくいとめる効果だけでなく、子どもたちを巻き込むことにより、非行防止につながったり、地域住民とのコミュニケーションを深めるよい機会にもなる。

保育園  
幼稚園



地域住民による  
「花壇の整備」



学校と地域が協力して、  
子どもたちと一緒に  
「ゴミ拾い」「落書き消し」



わかりました  
一度学校に  
うかがいますね



## 低学年の下校

学年によって下校時間が違い、  
低学年だけ早めの下校になる  
曜日がある。



今度の運動会  
警備についての  
ご相談がある  
のですが……

## 下校

集団下校をしている学校もある。  
下校後に向かう場所は様々。

- ・帰宅
- ・学校の「放課後子ども教室」など
- ・学童保育
- ・習い事に直行など

## 下校の見守り

登校時と同様に、自主防犯団体が実施したり、PTAが買い物などの外出の際にパトロールの腕章を身につけたり、「パトロール中」と書かれたプレートを自転車の前かごにつけたりして見守っている地域が多い。

## 学童保育

共働き家庭や母子・父子家庭の小学生の子どもたちの毎日の放課後（学校休業日は一日）の生活を守る施設。学童保育に一度帰ってきて塾に行く子もいる。地方自治体によっては、「学童クラブ」、「子どもクラブ」、「児童ホーム」など呼び名は様々。対象となる学年は低学年が多いが、高学年も預かる施設もある。

## 放課後子ども教室

主に小学校の余裕教室を活用して、安全な子どもの居場所となる「放課後子ども教室」を実施。各地域において名称は様々。PTA関係者、退職教員、大学生、青少年・社会教育団体関係者などが安全管理面に配慮し、子どもたちを温かく見守りながら、様々な活動を展開。

